

いなりじんじゃろうもん  
 稲荷神社楼門

●所在地／稲荷本村 伊豫稲荷神社 ●所有者／伊豫稲荷神社

この楼門は、三間一戸で屋根は入母屋造り本瓦葺である。その容姿はよく均整がとれている。

手法は和様と禅宗様（唐様）の様式を兼ねそなえ、蛙股には桜・唐草などの思い思いの浮彫りが施され桃山風が表れている。柱はすべて円柱で、下部に粽をつけ礎盤をそなえている。伊予の名工といわれた余土の治部の作と伝えられ、次のような楼門棟札が残っている。

寛文二壬寅年

奉造稲荷神社楼門 玉体安穩太守武運氏子繁昌之所

九月吉日 正遷宮神主高市大太夫藤原盛芳

寛文2年（1662）で江戸初期の建築である。

